

通信技術の未来を拓く学生論文特集の発行にあたって



通信技術の未来を拓く学生論文特集編集委員会

委員長 菊間 信良

通信技術の高度化・発展をよりいっそう促進するためには、将来の研究開発を担うことが期待される学生諸氏が活躍できる場をできるだけ多く設けることが必要である。そしてその場を提供することが学会の重要な役割の一つと考えている。本会の和文論文誌は、日本語での論文執筆が可能であることから、これまでに通信技術の研究開発に携わる学生からの多くの論文投稿があり、課題探求力と問題解決力の修練の場、研究成果を発表する場として一定の成果を上げてきた。

本特集号は、これまで以上に和文論文誌の場が学生諸氏の研究活性化の契機となるよう、特別に企画、実施したものである。特集テーマとして技術分野を絞るのではなく、通信技術全般において若手研究者の研究開発活動をより活発化させ、将来につなげて頂くことに重点をおいたところが本特集の特徴である。通信ソサイエティの全分野にわたって多くの論文投稿が予想されたので、和文論文誌編集委員全員に本特集の編集委員を務めて頂いた。また、投稿締切日の約2か月前に、通信ソサイエティマガジンの2008年春号で「学生、

若手研究者向け論文書き方術」が掲載され、執筆者の方々にとっては、タイムリーに「論文の書き方」が実践されたのではないかと考えている。

そのかいあってか、本特集号へ投稿された論文数は予想をはるかに超え、論文73編、レター6編の多数に及んだ。厳正な査読の結果、最終的には論文37編、レター3編を採録することとなった。

最後に、本特集号を発行するにあたり、御投稿頂いた方々、論文査読に御協力頂いた査読委員の方々、企画及び編集に御尽力頂いた編集委員各位、並びに事務局の奥村様に深く感謝申し上げます。この特集企画が今後も継続的に実施されることを期待している。

まぐま のぶよし
菊間 信良 (正員) 昭57名工大・工・電子卒、昭62京大大学院博士課程了。同年同大助手。昭63名工大助手、平2同講師、平4同助教授、平13同教授、現在に至る。工博。アダプティブアリー、到来方向推定、多重波伝搬解析、電磁界理論の研究に従事。第4回電気通信普及財団賞受賞。平18本会論文賞受賞。平19から本会和文論文誌B編集委員長。著書「アレーアンテナによる適応信号処理」、「アダプティブアンテナ技術」など。IEEEシニア会員。

通信技術の未来を拓く学生論文特集編集委員会

委員長	菊間 信良
副委員長	朝香 卓也
委員	石井 望・石川 義裕・大貫 雅史・岡部 寿男 加藤 寧・上山 憲昭・川又 憲・九鬼 孝夫 合志 清一・小西 聡・坂井 栄治・佐藤 伸二 佐野 裕康・佐波 孝彦・高橋 応明・田嶋 裕久 谷 英明・長 敬三・延原 裕之・乗松 誠司 前山 利幸・馬 杉正男・増田 悦夫・松田 哲史 水野 修・宮下 裕章・宮田 英之・森川 栄久 八嶋 弘幸・山崎 憲一・若林 裕之